

※ 下氷鉤小学校運営の方針・・・全教育活動を通して、児童一人ひとりの個性・能力を伸ばすとともに、敬愛の心を培い、人間性豊かな児童の育成に努める

## 新北校舎が完成して一か月が経りました。

長かった工事も終わり、ようやく新北校舎が完成してから1か月、子どもたちは新しい教室で気持ちよく使用しています。3月に完成する予定が、耐震基準の見直しとなり、工事開始は昨年12月の真冬からとなってしまう、

降雪に備え毎日シートをかけるなど、工事関係者の方々は何倍もの労力で乗り切りました。温もりのある校舎建築となるよう木の味わいを全面に出した校舎となりました。収容人数も1学年4クラス、35×4×6・・・800人くらいまでは対応



できるようにになりました。少人数教室、会議室、家庭科室、図工室がそれぞれ単独で使えるようになり、今までよりだいぶ教室にゆとりができ、さらに多目的室として多様な学習に使える教室が2つ、特別支援教育に必要なプレールームも設けられました。学習に有効に使っていただけるように工夫していきたいと思ひます。

生活科室は主に低学年の読書や読み聞かせ、休み時間にゆったりと本を読む場としての空間にしていきたいと思ひます。何十年と使っていかねばならない校舎ですので、大切にしていけるように子どもたちに指導していきたいと思ひます。ご家庭でも母校となる下氷鉤小学校の校舎を大事にしていくよう話題にさせていただければありがたく思ひます。



またどんぐり山や砂場での遊びもできるようになりました。低学年の遊び場も広く使えます。新校舎完成に伴う利点を子どもたちと共に生かして参りたいと思ひます。

## 絵画「さくら咲く頃」を寄贈していただきました。

区長会より学有林売却に伴いご寄贈いただいた図書館カウンターについて、増築新校舎へ飾る絵画を掲額しました。

描いてくださったのは、祖父母の会会長で、以前本校の教頭をされたこともあり、塔之腰生まれ、塔之腰育ちの正村昌男先生です。『さくら咲く頃』という題名だそうです。小さい頃からこのグラウンドで遊び、本校の子どもたちと遊び学んだ先生の心が伝わる絵です。5月頃まで構想を練り、6月から本格的に描かれたそうです。美しい下氷鉤小の桜と元気に遊ぶ子どもたちが描かれていて、何ともうれしいです。10月17日に子どもたちに紹介する式を設けます。図書館を利用する際にはぜひご覧ください。



額に入った作品は185cm×185cmの大作です。

## 5年生が古戦場で「霧の川中島」を披露。

9月14日（日）。5年生が八幡原の古戦場祭り「2008年川中島の戦い」の中で「霧の川中島」を演じました。早朝からのリハーサルと2回のステージ、大勢の観客の中で、堂々と演じていました。2学期初めからの毎日の練習の成果が十分に出ていたように思います。観客のお年寄りからは「かわいい！」の声。たくさんの拍手が起きました。



## 第113回下氷鉦小学校校庭運動会が盛大に開催されました。

第113回下氷鉦小学校運動会、台風一過の好天の下で、全ての競技が予定通りに行われました。雨が上がり天候も回復し絶好の運動会日和の中、どの学年もやる気が感じられ、集中力とまとまりのある演技や競技が繰り広げられました。各学年の伝統の種目、新しい表現への挑戦など、下氷鉦小学校のよき伝統が感じられたのではないのでしょうか。

ひとりひとりのあきらめず真剣に取り組む姿、全体のそろった姿、思いやりの姿などが見られ、『気力・体力・団結力全ての力を出し切ろう』という児童会のめあてが達成されたように思います。表現運動をやっているときのうれしそうな表情も印象的でした。友だちと協力し集団の中で一生懸命になれる場、発表する場となった運動会を改めて子どもが成長していく上でとても大切なことだなと感じました。

本校の子どもたちの素直で明るく一生懸命に取り組む姿が発揮されたように思います。これからも、運動会を子どもたちの大切な教育の場にしていきたいと思います。



## 町の縁側づくり（幻と一く・町歩き）

9月25日（木）。3年生以上の子どもたちが更北地区と長野市社会福祉協議会主催の町の縁側づくり「幻と一く」に参加しました。講師のNPO法人まちの縁側育み隊代表理事・愛知産業大学教授の延藤安弘先生からは、日本全国の①四季折々の花や緑いっぱい美しい町にしよう！②もっともっと町の宝物を探そう！③東に西に北に南に、お友だちをいっぱいつくろう！④学校と地域が支え合い、励まし合い、わかり合う場にしよう！⑤のんびり、ゆったりと、日々を生きよう！（頭文字をつなぐと下氷鉦になります）とまとめて話してくださいました。

「あそび心をもって企てる」「冒険する」「対話を楽しむ人になろう」「話し合っ、助け合っという生き方をしてみよう」等々町づくりだけでなく子どもたちが生涯に渡って「人として手をつなぎ合い心豊かに生きていくこと」など生き甲斐を持って毎日を過ごしていくことの大切さも話してくださいました。また実際の「まちのええとこ探し」（町歩き）の後のワークショップのまとめでは、「見えない宝を大事にする」「歴史の宝の意味を高める」「生き物、自然の恵を大切にする」「きたないものをきれいにする」「花も水も鳥もみな人々を守っている」「命の道」「道の意味」「遠い景色を大事にする」等々参加者が探し出した重要なテーマをとりあげ話してくださいました。

『人は一人では生きられない。人のために灯をともしば自分の前も明るくなる。』につながるお話をしていただいたように思います。

